関西大学佐治スタジオ
ー農山村集落との交流型定住による故郷づくりー

DATA

- **主な連携先・メンバー**
  丹波市／佐治倶楽部／佐治地域自治協議会／佐治地域活性化委員会／関西大学建築環境デザイン研究室 等
- **活動地域**
  兵庫県丹波市青垣町佐治
- **活動期間**
  2007年度～継続中
- **活動資金**
  関西大学教育研究高度化促進費／
  関西大学・丹波市連携事業推進協議会事業費

活動の目的

1 若い世代や大学生が地域に関わり続けることができる仕組みづくり
2 地域が主体となって空き家等、地域の課題に取り組む仕組みづくり

連携にいたる経緯

2007年に「関西大学佐治スタジオ」を開設し、同年、関西大学と丹波市が“まちづくり”に関する包括的な協定を締結。その後、文部科学省平成19年度現代的教育ニーズ取組支援プログラムに採択され、地域再生を軸に滞在型講座を展開し、単位認定の授業が生まれたことで現在まで活動が続く。

活動内容

田舎の原風景を数多く残す兵庫県丹波市青垣町。佐治スタジオを拠点に「関わり続ける定住のカタチ」と「21世紀の故郷づくり」をテーマに、大学生が空き家リノベーションや2泊3日で行う「地域再生滞在型講座」、一週間泊まり込みで丹波の生業を学ぶ「滞在型交流ワークキャンプ」等を通じて、地域に滞在し交流を深めながら農山村集落の地域再生に実践的に取り組んでいる。さらにそこから派生し、単位認定科目ではない一般参加も可能な「木造建築基礎講座」を実施するなど、活動の幅を広げている。また、2019年度には空き家リノベーションとして、佐治スタジオ近くにある「本町の家」の改修を学生とともに実施。このように佐治スタジオでは学生が体験的に学べる場を提供している。

活動も13年目に入り、卒業生が家族や子供とともに佐治スタジオを訪れたり、丹波市職員になるなど、新しい定住のカタチが醸成されつつある。今後も地域と関わり続けながら農山村集落の地域再生を考え、活動を続けていく。

活動の成果

1 学生が地域に頻繁に通うことによる“ひとけ”の創出
2 継続的に地域と関わりを持つことで、学生が帰ってくることができる場所となった
3 人口減少の中、地域と協働することで地域イベントの中核を担う存在となった

今後の課題・目標

1 空き家を活用したコミュニティビジネスの創出・実践
2 地域が主体となって空き家を活用していく仕組みの充実
3 関西大学全学部による横断的な地域再生への実践的活動の充実

教員紹介

■ 環境都市工学部 教授

江川直樹
Naoki Egawa

1951年三重県生まれ。74年早稲田大学理工学部建築学科卒、76年同大学大学院修士課程修了。77年㈱現代計画研究所入社、82年同大阪事務所を開設し、集住環境を中心とするデザインに取り組む。2004年に関西大学に教授として着任。多くの受賞歴がある中、2018年度には文部科学大臣表彰科学技術賞を受賞した。

協働担当者紹介

■ 一般社団法人カンデ

植地惇
Makoto Ueji

1990年三重県生まれ。関西大学環境都市工学部建築学科卒、同大学院修了。(建築環境デザイン研究室)卒業後は丹波市青垣町 佐治に移住し、関西大学佐治スタジオの研究員となる。2016年には関西大学佐治スタジオの二代目室長となり、学生と丹波が関わるコーディネート業務に携わる。